

<会員による自著紹介>

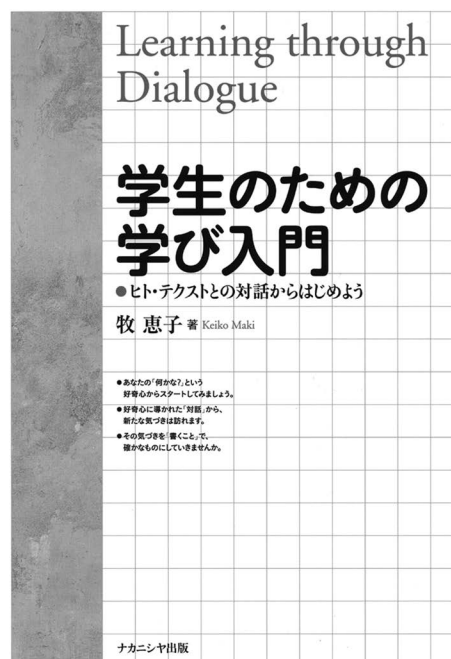
学生のための学び入門 —ヒト・テキストとの対話からはじめよう—

牧 恵子

愛知東邦大学

ナカニシヤ出版 (2014年発行)

定価 1,800円 (税別)



本書は、生涯の学びを考えるための出発点としての最小版FDとして産まれたものです。はじめに、「なぜ人は書くのか?」という素朴な疑問からでした。筆者は、教員養成系大学での「小学校の国語科教育」領域の授業を10年以上担当した経験から、初年次の大学生に出会ったことで気づいたことが数多くありました。また、学修支援センター教員として「日本語表現」を担当し、持っている基礎力で前に進もうとする力を強く感じる学生がどこで進めなくなっているのかを教えてもらいました。

こうした大学授業実践の積み重ねから、副題になっている「ヒト・テキストとの対話からはじめよう」という一点二指向に自ずと集約したわけです。「二」という複眼的思考が重要なところであります。

「ヒトとの対話」では、(仲間でもなく、友達でもない)「教室メンバー」との交流を意識させ、学生に「他者」の存在を知らせます。最小単位「一対一」の対話から出発し、次第に人数を増やしていきます。その結果、教室は少しずつ「教室独特な発表会形式」から「日常の対話」へと変わっていきました。

一方、「テキストとのレッスン」では、選択ということの苦手な学生に条件付き自由度を与え、選書からスタートです。一点の資料では書けない学生が、自分で選んだ2点の比較という「複眼的思考」のなかに置かれることで変わっていきました。さらに、こうした交流を習慣化するために二種のワークシートも作成しました。

2014年3月に出版したこの本をもとに、同年4月から、「ヒト・テキストとの対話」の授業が、著者のいない教室でも展開され、1短大3大学で9人の教員が広げてくれています。この本にこめた「学びのティップス」を、それぞれの短大・大学で今、展開していらっしゃる方法に少し被せていただくことで、学生の学びが変容することを期待しています。